

平成26年度 杉森中学校 第3回学校運営協議会 会議録

日時 平成 26 年度 6 月 26 日(火)17 時 10 分～18 時 40 分

会場 杉森中学校 会議室

出席者

《協議会委員》 高崎 彰
大川 洋
安藤 雄太
岡田 円治
由井 営太郎
向笠 佐奈江

大橋 亮介(校長)



《杉森中学校事務局》

工藤 康男(副校長)
加藤 雄一(進路指導主任)
シュテイペーリング 育子(教務主任)
山口 優(生活指導主任)
長谷川 祐子(嘱託事務)



会長 それでは始めます。今年の懸案の土曜授業ですが、私も1時間くらいでした
が参観に行きました。

それから、運営協議会対象の研修がありました。天沼小・泉南小の資料をお配りしました。学校によってCSもいろいろです。支援本部との連携をうまくとっているところもあるので、この運営協議会もそのようになるといいですね。委員たちがもっと授業を見せていただいて、保護者のインタビューなどできればと思います。学校で働いている方々と話しをするのもいいのではないかという内容でした。

司会 では昨今より話題に出ていましたが、新しい委員の紹介をします。

会長 本来ならば教育委員会からの委嘱となるのですが、今回は校長先生の方からよろしくお願ひいたします。

校長 平成26年7月1日から1年間、杉森中学校の運営協議会委員に向笠佐奈江さんを任命いたします。

向笠 よろしくお願ひいたします。



司 会 では学校からの報告をお願いします。

校 長 5月31日に体育祭がありました。好天にめぐまれまして事故もなく無事に終了いたしました 767名の保護者・地域の方々の参観がありました。活気と秩序ある体育祭となりました。実行委員が中心にとてもよくやってくれました。

メリハリのある体育祭でしたが、小学生との綱引きで参加者が20名と少なかったのが残念でした。

女子のソーラン節ですが、動きがそろっていて切れがあったと保護者の方からも感想がありました。



校長 6月14日の土曜日授業「めざせ!コスモポリタン」ということで、講師をまねいて第一回目の英語の授業がありました。

講師は、塾講師：田畠 康先生です。オノマトペやRとLの発音の違いなど興味深い話題から生徒たちを引き込んでいく良い授業でした。50分の授業をスピーディーに行ってもらいました。今話題の「アナ雪」にでてくる「レリゴー」などの話題も興味深く、次の回にもつながるヒントを残していただいたり、残り5回の授業で英語に興味をもってほしいと思っています。

副校長 本日学校だよりを発行いたしました。6月9日には「いのちの教育講演会」で赤坂動物病院の柴内裕子院長に生命の大切さや人生についてのお話をしていただきました。

6月13日には杉一と馬橋の6年生が授業見学にきました。2年生が6月19日に杉並公会堂に音楽鑑賞教室、25日に全学年で伝統芸能鑑賞教室のために能楽堂に行きました。



田畠 康 講師



赤坂動物病院
柴内裕子院長

教務主任 7月の行事予定をご覧ください。現在は期末テストが終わり行事も修了し、ひと段落したばかりです。

2年生が7日から11日まで職場体験。7月18日が終業式。3年生の三者面談が今年から夏休みに入った7月22日からあります。夏期パワーアップ教室が28日から、English Summer School (ESS) が29日から31日まであります。

進路指導主任 職場体験が7月7日から5日間の職場体験があります。体験先の一覧表をお配りしました。パン屋さんの受け入れ先が急遽中止になり男子生徒が由井さんのところでお世話になることになりました。

- 会長 ESSは八王子セミナーハウスでやることになりましたよね。課題はありますか?
- 進路指導主任 八王子セミナーハウスは、緑に囲まれて自然が豊かなところです。広い公園があるので、身体を自由に動かせます。花火やキャンプファイバーなど多種多様なことができます。課題としましては、30名ほどしか参加しないため、費用がかかります。
- ここで英語だけの生活を送り、最終的に自分たちでオリジナルスキットをつくります。英語以外の教員も応援で参加してくれるので、英語の力をためす良い学校行事になると思っています。
- A委員 小学生部活体験のお知らせに杉森中の部活が載っていますが、部活はこれだけですか?武道の部活はないんですか?
- 教務主任 何年か前に剣道部があったと聞いていますが、今はありません。
- A委員 武術はあったほうがいいんじゃないかなあ。
- 司会 司会 部活はありませんが、授業で相撲をやっていますね。
- 会長 昔の杉森はハンドボールが有名でしたよね。
- A委員 「サッカーチームがあるから」と、杉森中を希望する子供もいるようですね。
- B委員 土曜日授業はちょうど学校公開ということもあってたくさんの保護者が参観していました。保護者サイドからの感想なのですが、1年生よりも3年生に、好評だったようです。LとRの発音についてなど、わかり易く教えていただいたので、各自で発音していました。
- また海外の話しや宗教、生活習慣の違いなど実体験を“授業”という形でなくお話ししていただき、保護者の方々もみんなうなずきながら見ていました。次回が楽しみな様子でした。
- 司会 楽しんでもらえるというのが、いいですね。
- 能を見てきて子供たちの反応はどうでしたか?子供たちがなぜ伝統芸能を見に行くのか…ということをどう受け止めているんですかね?
- 副校長 そういう検証も必要ですね。
- 全員が興味をもつということはなかなか難しいですね。でも体験をするということは大切なことだと思います。東京都の施策でも伝統芸能を再度見直そうという動きがあります。三年間を通して、こういう体験を積み重ねることが大切だと思います。
- 司会 例えば、能楽堂でなくても良いのではないか?
- 大倉流などは鼓を分解して見せてくれたりします。裏側を知るのもよいと思います。伝統文化の持つひとつの側面を見るような教室もよいのでは、伝統文化の見方と言う物をわかると身近に感じられるのでは…。

- 会長 この間、神明宮で子供たちが“謡い”を神明宮でやっていましたね。こういう地域の能もいいのでは…話をきいてみたら、学校の周年行事などでもやってくれるようですね。ぜひ活用してみてはいかがですか?地域の人脈を生かしていつか企画できたらいいですね。
- B委員 阿佐谷育成が主催して杉一小で能の練習会をやっています。年に一度神明宮で発表会をしています。小学生の男女も何人かいるようですよ。
- 司会 立派な能楽堂での能もよいですが、生活の中の能、庶民がやる能という伝統文化のよさもあると思うんです。もっと身近に感じられたらいいですね。
- 少しでも若者に興味をもってもらって文化の継承をしてもらいたいです。
- 進路指導主任 能楽堂ではワークショップタイプで25分間位、子供に能を体験させてくれます。外国の方もたくさんお見えでした。座席の前にモニターがあって解説が英語でも見られます。3名の生徒が“すり足”などの体験をしました。
- 校長 この期間限定なんです。毎年抽選で決まるので、毎年予約を取るのが大変です。ワークショップ形式は普段の公演ではないんです。
- 生活指導主任 生活指導は、伝統芸能鑑賞教室の行き帰りともに問題もなくチェックもすぐできてよかったです。6月に都の「いじめの調査」をしました。まとめたものをまた次回にでもお持ちしたいと思います。



- C委員 職場体験の事業所ですが、数年前に比べるとずいぶんバラエティーに富んできましたね。物作りや、額に汗してする仕事を探しづらいですからね。来年以降もサービス業以外の職種が増えるといいですね。体験結果が楽しみです。
- 進路指導主任 特定の職種にならないように気をつけています。「鉢の木」さんでは工場での和菓子作りの体験もあります。今年の新しい体験先としては、荻窪園芸市場で花の競りや土・石を運ぶ仕事などもするようです。
- 司会 なぜ杉並区役所は受け入れてくれないんでしょうね。足立区役所は受け入れていますよ。区役所という職場だからこそ受け入れてほしいですね。
- C委員 毎年JRは新宿駅だけですか?
- 校長 体験先はJRの方で決まっているようです。大きな駅しか受け入れてもらえないようです。

- 司 会 他に議題はありますか?
- D委員 土曜授業にも関するのですが、ESD(Education for Sustainable Development)持続可能な開発のための教育の視点をもっと取り入れてはどうかと思います。
- 今文部科学省が新しい学習指導の素案を作っていますが、ESDを学習指導要領に入れようということで、早急に作業をしているところです。学校教育のどういうところにどうやって入れていくか力を入れているようです。
- 本来ならば、今年度中に教育課程に位置付けられていると、本当に注目される実践事例になると思うんです。区立の中学校でこういう実践があるといいですね。
- 会 長 ユネスコスクールに思い切って立候補するのもよいのでは?
- 本当の意味の国際教育ということになりますよね。
- D委員 ICU(国際基督教大学)の教育研究所にランガガー(Langager, MarkW)先生という方がいらっしゃいます。ESDの研究者です。
- 会 長 ランガガー先生にこの会に講師で来ていただいて、勉強会などしていただけるのでしょうか?「めざせ!コスモポリタン」という試みの中には、英語がうまくなろうというだけでなく、もっと幅広く社会に向けた発想があると思います。この会を前進させるためにも講義をしていただけたらいいですね。
- 私たちだけでなく、学校に生かせるといいのですが…。学校の実態に即したものとしてコントロールしていかなくてはいけませんね。
- D委員 ランガガー先生に来ていただけると思います。
- 学校の教育活動全体につながるような活動でなくてはいけません。持続可能な開発のための教育というのは、私たちの“買い方”“食べ方”“使い方”“捨て方”“環境問題”など世界とつながっているという視点を持ちながら生活していくということです。地理・歴史・公民の分野から物理・化学まですべての教育につながっている。土曜授業が英語の補習というのではなく、学校の教育全体に広がっていくといいですね。
- 校 長 土曜授業は英語の補習ということではありません。今回も国際理解ということで、海外事情についても話してもらいました。次回以降も、音楽や食べ物について様々テーマに広がっていく予定です。田畠さんが話してくれたことをそれぞれの教科、例えば社会情勢などにつながるようにしてほしいと先生方には話してあります。
- 少しでも英語に興味を持ってもらい、それを教科に広げるというのが、ねらいです。今年は6回なので、どこまでいけるかわかりませんが、継続してやっていければ良いと思っています。

- 司 会 生活に取り入れられるような英語を学べるのが、土曜授業であり、ESSなのではないですか。八王子でも地域の英語をはなせる人との交流があるとより良いですね。自然環境の地域ですからね。
- 校 長 ESS では外人の講師が生徒 6 人に 1 人がついてくれます。最近は 1 年生で外国に行った経験のある子供がとても増えていますね。驚きました。
- ESS や土曜授業の講師の先生から、私を含め本校の先生たちが刺激をうけてもらって、子供を引き付ける授業や話し方を学んでほしいと思っています。
- D 委員会 ESD は、2005~2014 年に日本政府が提唱しています。さらに今年からは教育課程に位置づけようとしています。それをどう位置づけようかという所で一番頭を悩ませていますね。
- 会 長 八王子でも総合的な学習の時間をどう位置づけようかということについてかなり苦労しながら作り上げていました。
- 学習指導要領で進路についてや職業体験を総合的な学習の時間を使っても良いということになったので、国際理解や環境教育についての時間がずいぶん減ってしまいました。文部科学省には総合的な学習の時間どう位置づけようか少し考えてもらいたいですね。
- D 委員会 総合的な学習の時間と他教科のつながりということになっていくと思います。
- 校 長 高井戸中には「環境部」というのがあり、部員が多数いるようです。
- 司 会 ESD はもともと環境からきています。動いたのは環境省ですからね。学校の部活動のようなことでマラソンコースに花を植えるとか、自分たちの環境をよくしていく…。割と取り組みの切り口は入りやすいと思うんです。
- 校 長 環境教育から、さらに広がっていきますね。
- D 委員会 生活の全領域にかかわっていく教育で、それが道徳につながっていきます。世間に目を向ける、興味関心をもつということです。
- B 委員会 美術で EDS の取り組みをしていましたね。
- 校 長 昨年はニカラグアとコラボで美術作品を仕上げて、交流しました。



- 会長 道徳公開講座でランガガー先生に講演していただくのもいいのでは?子供たちだけでなく地域の方にも聞いていただけますね。
- B委員 小学校ではいろいろな方が教室に来て授業をしてくださいますよね。中学校にはあまりそういう授業がないのでは…?
- 会長 子供たちが多様な人と会うことができるようにするというのが、この運営協議会の仕事だと思っています。
- D委員 チャイルド・ファンド・ジャパンというのが近くにありますね。学校にいける子を支援していくのがなぜ必要なのか?
フィリピンの植林はなぜ必要なのか?
現代社会にあるたくさんの課題を知り、自分はどう生きていくべきなのか、何をすればよいのか。ただ名前だけで職業を選ぶのではなく、何の為に働くのかということを知ってほしい。
- B委員 知るというのが学びにつながりますね。
- 司会 「なぜ?」という事が大切ですね。
- 会長 そういった視点を大事にしながら、またこの会で話し合っていきたいと思います。

